

(別添)

あきた病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

【あきた 病院の基本情報】

医療機関名： 独立行政法人国立病院機構あきた病院

開設主体： 国立病院機構

所在地： 秋田県由利本荘市岩城内道川字井戸ノ沢 8 4 - 4 0

許可病床数： 3 4 0 床

（病床の種別） 一般 3 3 4 床、結核 6 床

（病床機能別） 慢性期＝重心 1 6 0 床、筋ジス 8 0 床、神経難病 9 4 床
結核 ＝ 6 床

稼働病床数： 3 4 0 床

（病床の種別） 一般 3 3 4 床、結核 6 床

（病床機能別） 慢性期＝重心 1 6 0 床、筋ジス 8 0 床、神経難病 9 4 床
結核 ＝ 6 床

診療科目： 1 1 科＝内科、呼吸器内科、神経内科、外科、整形外科、小児科、皮膚科、
眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、歯科

職員数： 4 3 1 人

・ 医師	常勤	1 2 人	非常勤	5 人
・ 看護職員	常勤	2 2 8 人	非常勤	8 人
・ 専門職	常勤	9 1 人	非常勤	6 1 人
・ 事務職員	常勤	1 5 人	非常勤	1 1 人

【１．現状と課題】

「県の地域医療構想（平成２８年１０月）及び病床機能報告（平成２８年度）から抜粋」

① 構想区域の現状

当院が所在する地域医療構想区域、由利本荘・にかほ地域（以下「本地域」という。）の総人口は、人口構造を大きく変化させながら減少し続けると見込まれ、2015年10.7万人から2025年9.4万人まで減少する見込み（対2015年比87.8%）。

本地域の65歳以上の高齢者人口は、平成32（2020）年に36,876人まで増加し、その後減少する見込みである。また、総人口に占める高齢者人口の割合は増加を続け、平成52（2040）年には41.8%（75歳以上の後期高齢者人口27.6%）に達する見込み。

基準病床数制度に基づく本地域の基準病床数は881床であり、既存病床数の方が多い状態。

平成37（2025）年の本地域の患者受療動向は、概ね平成25（2013）年と同じような動向になると推計される。また、慢性期病床については、本地域から他の地域に患者が流出するだけでなく、全県から本地域に対して患者の流入がある。

② 構想区域の課題

本地域は秋田県の中でも無医地区・準無医地区が多い地域。また、平成21年調査時点に比較して、平成26年調査時点で無医地区・準無医地区は2増えている。

一般病床の利用率は県平均より高く推移しているが、減少傾向にある。ただし、冬季は外傷や肺炎、患者・家族の不安等により一時的に100%を超えることあるなど、利用率が高くなる傾向がある。

医師の総数そのものは横ばいであるが、依然として医師が不足している。医師の確保については、県で策定した医師不足・偏在改善計画17により施策を進めており、県全体として10年後の改善を目指している。しかし、地域偏在や診療科偏在の解消については不透明となっている。

本地域の28年度病床機能報告病床数と地域医療構想における医療機能別の必要病床数は次表のとおり回復期及び高度急性期病床が不足する見込みとなっている。

由利本荘・にかほ地域医療構想区域		慢性期	回復期	急性期	高度急性期	合計
病床数	現状報告数	547	178	718	7	1,450
	6年後の予定	497	228	699	7	1,431
	2025年必要病床数	452	246	374	77	1,149
2025年と6年後の予定との差分		-45	18	-325	70	-282

現在の医療機能の充実を基本としながら、不足する機能については他の区域との連携を図り、将来の医療需要に対応したバランスの取れた医療機能を持つ体制を目指す。特に、将来不足すると見込まれる回復期機能の強化を促進する。

③ 自施設の現状

- 国立病院機構の理念は、「私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のためにたゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。」である。
- あきた病院の理念は、「心のこもった、癒しの医療」であり、基本方針は次のとおりである。
 1. 患者さんの権利を尊重し、安心できる医療を提供します。
 2. 快適で満足できる療養環境を提供します。
 3. 政策医療を担い、かつ地域医療に貢献します。
 4. 研究・研修を推進し、専門性のある医療の向上に努めます。
 5. 生きがいのある職場作りをめざします。
- あきた病院は、重症心身障害児・者、筋ジストロフィーを含む秋田県内の全域にわたる神経難病患者に対する医療の提供を行っており、地域医療構想において「慢性期」の医療機能を担うこととされている。病床数は、重心160床、筋ジス80床、神経難病94床及び結核6床の340床を有し、入院基本料として障害者施設等入院基本料7：1を算定している。結核を除く一般病床の稼働率は、97%を超えている。
- また、障害福祉サービス事業所として、指定療養介護事業を併せて実施している。

④ 自施設の課題

- 当面は、現状の医療機能「慢性期」を維持・継続する方針。
- 地域医療構想を考慮しつつ医師の確保状況並びに患者動向を見極めながら、病床機能について検討していく。
- 結核医療については入院患者数が減少し非効率的な病棟運用となっており、地域の結核医療のニーズの減少に応じた運用とするため、早急に結核病床の廃止（神経難病モデル病床への転換）を検討する必要がある。
- 医療法上の標準医師数充足率が診療援助医師を加えて70%を超える状況であり、標準医師数の充足及び常勤医師の確保が課題である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 重症心身障害児・者、筋ジストロフィーを含む秋田県内の全域にわたる神経難病患者に対する医療については、由利本荘・にかほ医療圏のみならず県内から広く患者を受け入れており、平成29年1月に指定を受けた秋田県難病医療等ネットワーク事業の拠点病院としての役割を担い、早期診断から長期療養に係る医療を提供して行く。
- 地域医療構想において「慢性期」の医療機能を担うことから、その機能を維持して行く。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 新たに追加する機能はない。

③ その他見直すべき点

- ・ 結核病床の見直し(廃止等)について、秋田県と調整を図る。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	0		0
回復期	0		0
慢性期	334		334
(合計)	334		334

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	自施設の役割について地域医療構想調整会議において関係者と協議	自施設の今後の病床の在り方を検討	2年間程度で集中的な検討を促進
2018年度	協議の結果を踏まえ具体的な病床計画を策定	自施設の病床の在り方について関係者と合意を得る	
2019～2020年度	協議の結果を踏まえ具体的な病床計画を策定	自施設の病床の在り方について関係者と合意を得る	第7期介護保険事業計画 第7次医療計画

2021～2023 年度	協議の結果を踏まえ具体的な病床計画を策定	整備計画を策定	第8期 介護保険 事業計画
-----------------	----------------------	---------	---------------------

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目 ⇒以下の28年度実績値以上を目標値とする。

- ・ 病床稼働率： 一般 97.9% (327.1/334)
- ・ 手術室稼働率： 0.0%
- ・ 紹介率： 29.0%
- ・ 逆紹介率 33.4%

経営に関する項目* ⇒以下の28年度実績値以上を目標値とする。

- ・ 人件費率： 61.1%
 - ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.035%
- 注）独立行政法人国立病院機構本部の経費として計上している費用がある。

その他：

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

（自由記載）